さ SA く KU ら RA

feb..2018

発行／ボーイスカウト世田谷第５団広報部

ビーバー隊

１月７日　新年子ども祭り

ビーバー隊隊長　草嶋隆行

　　恒例の新年企画、今年も新年子供祭りに参加しました。三軒茶屋から世田谷線で区役所に向かいます。毎年のことですが、ちょっと変わった電車、ということで世田谷線車内からスカウトも大はしゃぎです。会場では新潟県六日町からの協力で持ち込まれた雪でつくったスロープでのそり滑りや、かまくらがありました。最大の人気イベントであるそり滑りに並びます。かなりの迫力で、一番人気なのもうなづけます。次に氷のスロープに行きましたが、例年と違って係のお兄さんが「スペシャルコース」というスピードアップバージョンを提供してくれました。
　その後はゲームなどを楽しみつつ、隣の公園で弁当を食べて無事に終了しました。世田谷の他団のビーバー隊やカブ、ボーイ、ベンチャー、ローバーに加え、日頃全くと言っていいほど接点のないガールスカウトもいて、イベント以外にも新鮮な経験になったと思います。

１月28日　４団合同企画

ビーバー隊隊長　草嶋隆行

４団からお誘いいただき、合同でドッチボールをしました。４団は女の子もいる団ですが、当日はインフルエンザなどもあり、たまたま参加スカウトが全員女の子という展開となりました。人数も少ない４団には大人も入ってまずはドッチボールです。昨年のクリスマススタンツでも一番楽しかったプログラムとして挙がったドッチボールだけあり、１試合だけの予定が追加試合のリクエストが出るほどでした。
　その後は暗闇でのゲームなどを行い、いつもと違う環境にスカウト達もおおはしゃぎ！
他団との合同イベントは増えた人数を活かしたゲームやプログラムを出来るいい機会ですので、今年もビーバーラリーはもちろん、他団とのイベントにも積極的に参加していきます。

カブ隊
1月7日　新年子どもまつり＆ハイク

ＣＳ隊副長　畑崎祐子

　新年最初、もう恒例となった行事が「新年子どもまつり＆帰路のハイク」。担当となって４回目ですが、毎年帰路のハイクのお題に四苦八苦。ことしは、植物や動物の落し物を探して、ゴールの等々力までは好きなところを通ってビンゴを埋めていく、「ネイチャーフィールドビンゴ」を実施しました。
　下見で、概ねどんなものがどこにあるのか実地で確認はしたのですが、なにせ範囲が広すぎて、すべてはむずかしく、そこで意外な落とし穴が毎年あるのですね。今年は、「赤い実、黒い実、イチョウの葉、松葉、動物の毛」などを探す趣向でしたが、一つの公園でほぼ全て揃ってしまうなんていうアクシデントが・・・。
　とはいえ、世田谷区が２３区の中でもけっこう緑が多く、それを市民が楽しめるようなしかけもあちこちにあることなど、子どもたちがいつか理解してくれるといいなと思って企画しています。今回のお題で間違いが多かったのが「桜の葉をさがす」というお題。木の葉もいろいろなかたちがあるって、わかってくれたかな？

１組　うさぎ　大野敬典
　ハイクは疲れたけど楽しかった…さくらの葉っぱを間違えてしまったのは残念でした。

2組うさぎ 高木彩多

　新年こどもまつりではキーホルダーや風車を作ったり、おみくじをひいたりしました。おみくじが大吉でうれしかったです
　ハイクは僕が地図係で、一番早く行ける道を選んで2位で到着できました。ビンゴで桜の葉を間違えたけど楽しかったです。

1月21日　たこづくり、たこあげ

ＣＳ隊副長　太田雄介

　今日は、5団カブ隊名物のビニール袋製のタコ作り＆タコ揚げをしました。
去年は、ハサミの使い方が覚束なくて、なかなか制作が進まないスカウトが何人かいたので、今日は初めの10分でハサミの使い方の説明から始めようと思っていました。「先っちょじゃなく、真ん中あたりで切るんだよ」とか「あまりジョキジョキさせずに、スーッと力を入れずに動かせばまっすぐ切れるよ」など。すると、その後の工程が例年よりも順調に進んだように思いました。
　今年のタコの絵のテーマは「犬」（めちゃくちゃ普通でスミマセン）。各自、思い思いの犬の絵を描いて完成させました。終了後、副長たちでデザイン審査をしました。
　その後、多摩川へ移動して河川敷でランチ。快晴で気持ちがいいのですが、風をあまり感じず、やや不安に。ただ、タコ揚げ練習を始めると、少しずつ風が吹き始めました。後半、たこ揚げコンテストを始める頃には、ちょうど良い風が吹き、次々と空高く上がって行きました。タコ揚げは、その日の風の具合に強く左右される遊びなので、なかなか毎年同じルールでコンテストを行えません。今年もやはり、あらかじめ想定していたルール「誰が一番高く揚げられるか？」で採点するのは断念して、「糸を出し切った子の数が多い組はどこか？」に変更して得点をつけました。
　午前のデザイン点と午後のコンテストの点数を合わせて集計した結果、3組→2組→1組→4組の順になりました。
　副長になって3年、毎年少しずつ改善を重ねて、今年はタコを「作る」ほうの指導はうまくいった実感はありましたが、タコを「揚げる」コンテストの審査の仕方は、まだまだ工夫や研究の余地が残っているなあ…と思いました。来年以降、よりよいコンテストの運営・採点ができるように考えていきたいと思っています。

２組DL石井無二

朝からデザイン賞やどれだけ飛ぶか他の組と競うのを楽しみにしていたスカウト達。
たこづくりでは、ビニール袋を切るのが難しそうでしたが、とても真剣に行っていました。いつもおしゃべりが止まりませんが、ビニール袋を切るときは、シーンと静まりかえるほどでした。
デザインは干支である『犬』がテーマ。どんなのにするか下書きをしたりと工夫していました。
河原でのたこあげ。風が少なく不安でしたが、徐々に風も出てきて高くあげることが出来ました。スカウト同士、どっちが上手にあげられるか競って楽しんでいました。

3組 しか 秋山達彦
今日は優勝できて嬉しかった。
最初は「優勝できるわけない」
と思っていたけど、いざ練習して
みると結構飛んで嬉しかったです。
またやってみたいなあと思いました。

4組 しか　吉成慶音

今日は待ちに待った凧揚げ日で、風があまり吹いていないので、凧揚げにして最高日です。練習の時に、凧が思い通りに上げられなくて、何回かやっているうちに段々上手になってきました。本番の時に、凧が急に高く飛んでいって、糸を一気に出し切って、手から離れてしまいました。僕が一所懸命に糸を追いかけて、やっと掴めました。結局、組で4位だったけど、自分の思っていた以上に楽しかったです。

ボーイ隊
1月7日 新年こども祭り@世田谷区役所

BS隊　オットセイ班　草嶋優太

新年子供祭りの奉仕活動を終えて残念ながら楽しかったという思いは浮かばなかった。前にも言ったが達成感の無い（少なくとも僕にとっては）奉仕活動は好きではない。僕の性格の悪いところだ。直そうと思って簡単に直せるものではないので、もう割り切って最後までやりきった。3つのシフトがあったのだが、全て同じ場所でのごみの分別の作業だった。同じ作業の繰り返しと、猛烈な寒さからやる気をなくしその態度を神田さんに叱られた。ボーイスカウトとしてやっているのだから表向きだけでも精力的に行うべきである。班長として情けないと感じた。
ボーイ隊の活動に奉仕は付き物です。
地域の皆さんにも見られている訳だから、真面目に取り組んで僕のようにはならないで下さい。

ローバー隊

RS隊 山根徳仁

「人を動かす力」

もう半分が過ぎようとしている大学生活。漫然とした日々を送っていたが、ある日ふと、我らが渡口隊長のボソッと言ったひとことを思い出した。

「大学生活なんて、映画や本を読むためにあるんだよ」

その時から、私は変わった。
これまで読書などほとんどしてこなかったのに、常に本を持ち歩くようになった。今は電車での移動時間中に、あるいは寝る前に、時間を見つけてはページをめくる。本が一気に身近なものとなったのである。

最初、何万とある本のどれから読み始めればいいのか正直わからなかった。そこでまずは、本屋で話題になっているものから読むようにした。そうやって何冊か本を読んでいくうちに、自分が好きな本の傾向が分かってきた。
それは、心理学や自己啓発の本であった。

昔から私は読書を億劫に感じていた。しかしそんな私でも、心理学や自己啓発の本は驚くほどスラスラと読めるではないか。文字を追うことに対する拒否感は薄れ、友人と「あの本読んだ？」・「この本面白いよ」と、そんなトークをしてしまうほどに最近の私は本に没頭している。

なぜこれほど本に夢中になれたのか？

本の側と私の側それぞれに理由がある。
心理学や自己啓発のような評論系の本は、小説と違って小さなテーマに1つ1つ分かれていて、全体の構成が整理されているものが多く、読みやすいことが1つ。これは本の側の特徴に起因する理由だ。
他方私は、自分のコミュニケーション力や表現力の乏しさを改善したいとずっと思っていた。そんな気持ちがあったので、これらの本がすぐさま私の心に刺さったことが1つ。これは私の側に起因する理由である。

本は想像力や語彙力など様々なものを与えてくれる。映像では想像する前に目の前に答えが出てきてしまうので、想像するチャンスを与えてくれないのだ。
最近読んだ本に書かれていたことの中で、特に印象深かったものがあった。それによると、人を動かそうとしたり心に訴えようとしたりするとき、話の内容は同じでもメッセージの伝え方やコトバの使い方を工夫することで、結果は全く異なってくるという。

それはつまり、身振り手振りや表情、表現や単語の選択次第で相手を心理的に操ることができる、ということである。このように書くと、洗脳テクニックのようで何か危険な感じがする。実際これは良く言えば「人を動かす力」であるが、悪く言えば「洗脳」でもあるのは間違いない。

人を動かす力は、今後も生かせる機会がきっと多いであろう。ボーイスカウト活動に限っても、この力は様々な場面で役に立つ。

例えば、班長はどういう風にメッセージを伝えれば、班員にうまく話を聞いてもらえるか。あるいは、話し方や話の強弱をどうやってつければ、自分の想いを相手の心に届けることができるか。これらのことを意識して実践するかどうかで、相手の受け取り方も随分違ってくるはずだ。
別の例をもう1つ。2017年夏、世田谷第5団65周年キャンポリーのキャンプファイヤーのとき、突然の歌い出しを開始の合図とした。もしその時に「これからキャンプファイヤーを始めます」といった会議の開始の合図のようなことをやっていたら、盛り上がりは全然違ってしまっていただろう。なにかを始めるとき、説明からではなくいきなり始めることで強いインパクトを与える方法は、これに限らず様々なところで使われるテクニックである。

実はこの文章自体にも、「メッセージの伝え方やコトバの使い方」を工夫することで、相手（=読者）の受け取り方を変える例が隠されている。いや、そもそも文章はコトバから出来ているのだから、その全てが本来的にこのようなテクニックを意識して書かれるものなのだが、特に分かりやすい例を1つ、仕込んであるのだ。
それは、「洗脳」という言葉のチョイスである。
先ほど、「このように書くと、洗脳テクニックのようで何か危険な感じがする」と書いた。この括弧の中で言っていること自体が、「コトバの使い方」次第で「相手（=読者）の受け取り方」が大きく変わることの具体的指摘になっている。さらに言えば、このような指摘をわざわざ書いてしまうことで、「洗脳というコトバを使っているけども、そのコトバの悪いイメージに引きずられすぎてはいけないよ」というニュアンスを伝えている。
また、『悪く言えば「洗脳」でも間違いではない』とも書いた。ここで「悪く言えば」というコトバを選択したのも、「洗脳」という単語のイメージの悪さを和らげて相対化する効果を狙っている。
「洗脳」を、善悪とは無関係の単なるテクニックとして理解すること。もし「洗脳」を悪だと見なしてしまうと、洗脳テクニックを理解して使いこなすのは悪人だけになってしまう。すると、この世には「悪い洗脳」がはびこってしまうし、善人が洗脳に対抗することも出来なくなってしまう。心理学や自己啓発の本を読んでそう思ったからこそ、「洗脳」という強いコトバを

あえて使った。

　ローバースカウトになって、人前で話をする場面も増えた。どうすれば印象深いことを言えるだろうか。もっと多くの本に触れ、さまざまな知見を学びたい。
　私の話を聞いたスカウトの心の片隅に、「そういえばあの時あの場所でローバースカウトがあんなこと言っていたな」というかたちでメッセージが残ればいい。つまりその場の雰囲気や出来事とともに心に刻まれて、何年か後に楽しかった記憶とセットで思い出してくれるような、そんな話ができるようになりたいと思っている。

　そんな私の理想の達成のために、本を読んでコトバの力を学ぶことが必要なのだ。
　最近は皆がスマホを体の一部のように持ち歩くので、そのせいで本と接する機会が減少している。たまには画面を閉じて、じっくり本を読む時間をつくり、画像や動画からは得がたい想像力や語彙力を鍛えて、興味・関心の幅を拡げていくべきだ。

　ボーイやベンチャーの活動は多くの場合仲間と一緒に行う。本などで学んだコトバの力は、皆を巻き込んで1人では出来ない活動を企画するときにも大いに役立つし、活動をしているときも、それをより楽しく想い出深いものにするのに役立つ。
「洗脳」とか「語彙力」とかいった、ある意味「わざとらしい」ことを意識しながらでもスカウト活動を続けていけば、いつしか自分の心の扉が世界に開いていることに気付くはずだ。

ローバー隊　隊長　渡口要

科学と詩 第2回

（つづき）

3. Success

　“Rover”という言葉のイメージは分かりました．では，そんな“Rover”は，いったい何を目標に道を切り開いていくのでしょうか？
『Rovering to Success』という著作のタイトルから分かる通り，その目標とは「成功（success）」です．しかし“success”とは一体なにか？

　これに関して，B-Pが『Rovering to Success』の中で述べた，以下の有名な「解答」があります．

****
　THE ONLY TRUE SUCCESS IS HAPPINESS
　What is success?
　Top of the tree? Riches? Position? Power?
　Not a bit of it!
　These and many other ideas will naturally occur to your mind. They are what are generally preached as success, and also they generally mean overreaching some other fellows and showing that you are better than they are in one line or another. In other words, gaining something at another's expense.
　That is not my idea of success.
　My belief is that we were put into this world of wonders and beauty with a special ability to appreciate them, in some cases to have the fun of taking a hand in developing them, and also in being able to help other people instead of overreaching them and, through it all, to enjoy life — that is, TO BE HAPPY.
　That is what I count as success, to be happy. But Happiness is not merely passive; that is, you don't get it by sitting down to receive it; that would be a smaller thing — pleasure.
　But we are given arms and legs and brains and ambitions with which to be active; and it is the active that counts more than the passive in gaining true Happiness.
　たった一つの真の成功とは幸福になることです
　成功とは何か？
　組織のトップに立つことですか？ 金持ちになることですか？ 地位を得ることですか？ 権力を持つことですか？
　否，まったく違います！
　これらのものを含め，様々な考えが君たちの頭に自然と浮かぶことでしょう．一般に，これらのことこそが成功であると刷り込まれています．あるいはそれは，他の人々を出し抜くということでもあり，また，仲間であるかどうかに関わらず，他の人々よりも君たちの方が優れていることを見せつけるということでもあります．言い換えれば，他の人々を犠牲にして手に入れるものです．
　そのようなものが成功とは，私は考えません．
　私の信じるところでは，我々は，この驚異と美に満ちた世界に，それらを正しく認識することのできる特別な能力を持って生まれてきたのです．それは例えば，世界の驚異と美の解明と発展に関われることを喜びに感じる能力であり，また，他の人々を出し抜くのではなく助けることができる能力でもあります．そしてそれらを通して人生を楽しむことができる．— これこそが「幸福になる」ということなのです．
　以上が，幸福になることこそ成功であると私が考える根拠です．しかし，幸福は単に受動的なものではありません．つまり，座ってただ待っていても手に入れることは出来ないのです．座ってるだけで手に入れられるのはもっとつまらないもの，— 快楽にすぎません．
　しかしながら，私たちには能動的に行動するための腕，脚，頭脳，そして志が備わっています．したがって，受動的であることよりも能動的であることが真の幸福に通じているのです．
****

　この言葉の中で重要なのは「認識（appreciate）」です．B-Pは認識こそが真の成功，すなわち幸福に至る鍵だと考えていたのです．
　では認識とは何か？
　私の考えでは，認識には2種類あります．「科学的認識」と「詩的認識」，あるいは「理系的認識」と「文系的認識」です．結論を言えば，B-Pはこの2つの認識を融合（哲学用語では，止揚・アウフヘーベン）させたところに，真の成功＝幸福があると考えたのです．
　それはまた，2017年さくら2月号の【理論と実践】や2017年さくら3月号から始めた【観察と推論】の話とも関係します．つまり，認識とは理論と実践の両方，あるいは観察と推論の両方が揃って初めて可能になるというわけです（2017年さくら4月号：【3.「みる」こと】で紹介した「観察の理論負荷性」の話を思い出してください）．
　ついでに言えば，科学と詩の対比あるいは理系と文系の対比は「手段と目的」の対比とも重なります．つまり，科学は手段であり，詩は目的を設定する．
　・科学↔詩
　・理系↔文系
　・手段↔目的
　・理論↔実践
　・推論↔観察
という対応関係があるのです．
　もちろん，これらの対応関係は綺麗に分かれているわけではありません．科学が目的を設定したり，観察が理論に依存したりといったことがあるのは，2017年さくら4月号：【4. 科学者にとっての「みる」ことと「はかる」こと】などで述べた通りです．
　これらの対比それぞれを融合させることが，このさくらの文章で私がずっとやっていることです．そしてそれは，B-Pの人生哲学あるいはB-Pがボーイスカウトでやろうとしていたことでもある，と解釈できる．言い換えれば，そのような解釈の下で『Scouting for Boys』や『Rovering to Success』を読む（読み換える）ことは生産的であると思うのです．
　もちろん，B-Pが科学と詩の融合を目指したと解釈するには，慎重かつ勇敢な議論・作業が必要です．2018年さくら1月号：【2. Rover】で“rover”という単語から「惑星探査車」および「（GPSの）移動局」という2つの意味を引き出したのは，そのような作業の1つでした．今後もこれを続けていくことになるでしょう．

　科学と詩の融合という見方について説明してきましたが，ボーイスカウトでは「科学」の要素が見落とされがちです．そこで以下では，前記B-Pの言葉：“THE ONLY TRUE SUCCESS IS HAPPINESS”の中から，科学的要素を多少強引に見出していきます．

　B-Pの考える認識の中に「科学」あるいは「物理」的な要素が入っているらしいということは，「この驚異と美に満ちた世界（this world of wonders and beauty）」や「世界の驚異と美の解明と発展に関われること（taking a hand in developing them）」という言葉に現れています．特に“wonder”という言葉は，「センス・オブ・ワンダー（sense of wonder）」という言葉（SF作品や自然現象に触れたときに引き起こされる不思議な感動を表す言葉）があるように，科学的な世界の見方を強くイメージさせます．
　ちなみに，書籍化されている日本語訳の『ローバリング・ツウ・サクセス』では，“taking a hand in developing them”が「世界をよりよくすることに手を差し延べること」と翻訳されています．しかし私の考えでは，この翻訳はB-Pの意図を十分に汲み取れていません．
　ここでの“them”は複数形ですから，その指示対象が“world”ではなく“wonders and beauty”であることは明らかです．そして，“beauty”が「詩」に属する言葉であるのに対し“wonder”は「科学」に属する言葉であると解釈すると，ここでの“develop”は「よりよくする」という抽象的なニュアンスではなく，「解明する・発展させる」というニュアンスで捉えるべきだと思うのです．

　さらに勇み足を進めましょう．B-Pが“wonders”と“beauty”という言葉を使っていることに注目します．
　前者が複数形なのに後者は単数形なのを不思議に思いませんでしたか？ これは，“wonder”が可算名詞，“beauty”が不可算名詞であることを意味しています．
　可算名詞としての“wonder”の意味は，「驚異」ではなく「驚異的な出来事，不思議なこと，自然界の奇跡」です．他方，非可算名詞としての“beauty”は「美」という意味です（“beauties”だと「美人たち」という意味になります）．ですから，日本語の語感を優先して“this world of wonders and beauty”を「この驚異と美に満ちた世界」と訳したものの，「この驚異的な出来事の数々と美に満ちた世界」とした方がニュアンスを正確に捉えています．
　何を言いたいのか？ つまり，ここでの“wonders”と“beauty”とは抽象度が異なるのです．もちろん，“wonders”の方が具体的だということです．
　自然界に見られる具体的な驚異的出来事，すなわち日食の原因や虹のメカニズムなど，人間が「頭脳」を使って理解するべき「自然科学的現象」を“wonders”は意味している．それに対して“beauty”の方は，人間が世界を見渡した時に「心」で感じる抽象的なもの，すなわち日食の恐怖や虹の神秘といった「詩情」と呼ばれるものを意味している，と考えられるのです．
　この世界の驚異的出来事（wonders）と美（beauty）を“appreciate”し“develop”すること．すなわち科学的な認識と詩的な認識を共に持ち，それらを解明し発展させること．
　夏目漱石の小説『こころ』のタイトルがひらがななのは，“mind（知性，頭脳に宿る）”と“heart（感情，心臓に宿る）”の二重の意味を込めたからだ，という解釈があります（漢字表記とひらがな表記の意味および響きの違い，という観点もあります．そちらは後に論じます）．それを採用すれば，“mind”と“heart”の融合（止揚，アウフヘーベン）としての「こころ」によって世界を認識（appreciate）することこそ，幸福になるための方法，すなわちB-Pの考える成功（success）だと言えるでしょう．

（つづく）

会議報告

育成会役員会　1月7日(日) 10:00～12:00 尾山台ロイヤルホスト
・1/20 九品仏バザー最終確認
・1月の集金(登録費)について
・入団説明会の準備、チラシ印刷作業の確認
・その他
団会議・団委員会　1月20(土) 19:00～　尾山台地区会館第1会議室
★　各隊報告
★　バザー報告　育成会より
★　入団説明会　3/11　13:30～　説明会　玉堤地区会館大会議室
14:00頃～　河川敷で活動を見学
★　その他　今後の日程
ＢＰ祭　　2/18 九品仏地区会館大会議室　9:30～
上進式　　4/1
総会　　5/27 予定
★　登録締切　2/18
* リーダーは、「セイフ・フロム・ハーム」の受講（ＨＰで受講可）が必要

会議予定

2月7日(水)　育成会役員会　玉川総合支所（仮設庁舎）等々力庁舎1階 印刷室および会議室
9:30～12:00（印刷室）入団説明会チラシ印刷
13:00～15:00（会議室）チラシ仕分け、配布、第6回役員会
2月17日(土)　団会議・団委員会　19:00～　奥沢地区会館第3会議室
* 団行事決定、補助金決定
3月17日(土) 団会議・団委員会
* 各隊予算、及び活動計画を提出

〈育成会より〉

☆　育成会よりバザー報告　☆

20日(土)九品仏参道で開催された餅つき大会に『ボーイスカウト世田谷5団育成会』として参加しました。バザーは大盛況で、46,850円の売り上げとなりました。この売り上げは団の資金となり、スカウト達のために使われます。皆様がお持ちくださった献品のおかげです。また販売のお手伝いをして下さった保護者の方、寒い中本当にご協力ありがとうございました。